

第3部

第3部では、第1部・第2部で学んだことをもとに、身近な地域や人々と関わるフィールドワークや調べ学習を通して、地域や人権の課題を自分事として捉え、考えてみましょう。

ここでは、各地区の様々な施設や史跡、NPOなどの団体・組織をいくつか紹介しています。学校での学びの探究や自分自身の関心に応じて、実際に訪れて体験してみたり、さらに詳しいことを調べたりしてみましょう。そうすることで、地域の特徴や魅力、そして地域の課題が見えてくるのではないのでしょうか。また、住みよい街づくりの工夫や、困っている人への支援の取組など、各地域の歴史上や現在進行形の人権課題に対する取組や、未来の展望が見えてくるかもしれません。

未来の担い手として、また地域の一員として、地域に貢献し、すべての人々の人権が尊重される社会を築くアイデアや取組を考えてみましょう。

紹介している施設や史跡、関係機関などはあくまでも一例です。決してこれがすべてではありませんし、十分ではありません。地域の自分が知っているもの、新たに発見したものを地図に自分で追加していきましょう。あなた自身で必要な資料や情報を探し出すことも大切な学習です。

☑ 留意点

- (1) 訪問に際しては、事前に問い合わせが必要な場合があるので確認をしましょう。また、協力への感謝の気持ちやお礼なども忘れないようにしましょう。
- (2) フィールドワークでの体験は学びの機会としてとても貴重なものです。しかし、体験だけで終わるのではなく、事前の下調べや疑問点の整理、事後に調査内容を整理し、深め、まとめ、発表・提案などの表現までを行うことで、探究や学びがより深まります。
- (3) 各地域の市や町には、地図上に示しているもの以外に、以下のような人権に関連のある施設や団体・組織があります。

[例]

- ・ 隣保館
- ・ 社会福祉協議会
- ・ 国際交流協会
- ・ 在日外国人や外国にルーツを持つ人を支援する NPO・NGO、日本語教室

- (4) 体験には、施設や関係機関の訪問以外に、セミナーや講演会、イベントや活動に参加する方法もあります。

[イベントの例]

隣保館マルシェ

被差別部落に伝わる地域文化(芸能・産業・食文化等)などに「直に触れ体験できる学びの場」、隣保館活動を支える人々の交流や情報交換など「つながりを深める場」として、2014 年から神戸市、芦屋市、加古川市、姫路市、伊丹市など様々な会場で開催されている。

マダン

韓国・朝鮮語で「広場」を意味するが、元々は農村で庶民の娯楽が行われる村の広場をさし、そこで演じられる民衆芸能の意味に転じた。「伊丹マダン」など、多文化に触れるイベントの名称として用いられている。現在は、在日外国人や異文化への理解を深める催しとして開かれている。これまでに、加古川、伊丹、神戸、芦屋などで毎年開かれている。

プライドパレード

LGBT 等、セクシュアル・マイノリティ(性的少数者)のパレード、その文化を讃えるイベントをさす言葉。各時代における法的権利(同性結婚や反差別など)を求める LGBT の社会運動の場ともなってきた。県内では、これまでに神戸や明石で開催されたことがある。

子ども食堂

地域のボランティアが子どもたちに対し、無料又は安価で栄養のある食事や温かな団らんを提供する取組のこと。子どもへの食事提供から孤食の解消や食育だけでなく、地域交流の場などの役割もあり、子どもの貧困対策、子育て支援、介護予防、虐待予防など多機能を持つ場所になっている。